

世界革命・暴力革命の旗のもと 階級闘争を前進せしめよ！

一九六七・一一・九

11/12・佐藤訪米阻止闘争を闘え！ 午後一時、羽田萩中公園に集結せよ！

共産主義者同盟関西地方委員会
社会主義学生同盟関西地方委員会

連絡先 大阪市福島区鷺洲上三〇三
土寅ビル内 戦旗社
(大阪)四五八一〇二三五

(I) 11/12 佐藤訪米を実力で阻止せよ

①十月八日の佐藤「ベトナム訪問」阻止闘争をかきりとして、十月十三日全国反戦統一闘争、十月二十一日国際反戦闘争へ闘いは発展して来た。

アメリカ帝国主義のベトナム戦争に反対し日本帝国主義のベトナム戦争加担に反対し東南アジア侵略に反対する闘いは、単に日本だけではなく、アメリカ、フランス、イギリス、西独などの先進諸国や又、その他の後進諸国においても闘われ、戦後始めて、国際的に結合した闘いに発展しました。そして、この闘いは、ベトナム戦争のエスカレーションとともに年々拡大し、大きな闘いに発展しようとしています。

日本に於いても、この国際的な闘いは、昨年の二一闘争にひきつづき、本年は、国鉄を中心とした軍事物資の輸送拒否と結びつきながら、更に広く、深い闘いになってゆきつつあります。

② 十月八日、羽田で斗われた佐藤訪米阻止闘争は、全学連の英雄的な、自己犠牲的な闘いでした。然し、十一月十二日の「佐藤訪米阻止闘争」は、日本の労働者階級が、実力でもって斗わなければならぬのです。

十月八日の、全学連が斗った「佐藤訪米阻止闘争」に対して、いろいろの種類の批判や説教が行なわれて来ました。然し、このような批判や説教をする人々は、現実にはアメリカ帝国主義が毎日毎日ベトナムで人殺しをし、暴虐をくりひろげていることについては、あまり批判しないのです。それだけではなく、日本の帝国主義が、このようなベトナム戦争に加担し、東南アジアに侵略しはじめていることに対しては、有効な闘いを組織しようとはしていません。自分の事は棚にあげておいて、さも物知りのような顔をして、学生を批判しているのです。然し、日本の労働者は、けっして、このようなまねをしてはならないのです。

学生が批判されながら闘っているとき、最も、進歩的に闘うことによって孤立させられようとしている時に、労働者は学生を見殺しにしてはならないし、又、単に、学生をまわりでとりまいて、やっただことをひねくりまわしてはいけません。

労働者は、この学生の闘いを、自分達の闘いとして共に闘わねばならないのです。さやそれ以上に労働者が中心になって闘う必要があるのです。学生が孤立しているというはほかにない、労働者が闘っていないことをはっきりと物語っているのです。

十一月十二日の「佐藤訪米闘争」を学生は、再び、実力闘争で闘おうとしています。労働者は、この闘いを学生にまかせたり、闘う学生を批判したりするのではなく、労働者階級の闘いとして、労働者が中心になって闘わなければなりません。

③ 労働者の皆さん、現在、労働者階級の内部には、はっきりとした二つの傾向が生まれています。一つは、公労協、民間大手、そして中小企業、商業の中で、政府自民党の弾圧や政治的な攻撃とブルジョアジーのあくなき搾取に対して、怒りをおぼえ、闘いを強

めてゆかねばならないという潮流です。もう一つは、労資協調でやってゆこうとしている潮流です。このような潮流は、十月八日の羽田訪米阻止闘争に対しても、はっきりとあらわれて来ました。一方は、何はさておいても、全学連や、この「佐藤訪米阻止闘争」も無条件に支持し、擁護しなければならぬと考えました。然し、もう一方は、政府、自民党や、ブルジョア新聞といっしょになつて、学生を批判したのです。学生や労働者の味方のような顔をして、全学連を批判したのです。自分達が、権力や資本家と闘っていないことを棚にあげて、労資協調でもって、労働者階級を裏切っていることを棚にあげておいて、全学連が斗ったのはよくないといつて批判しているのです。

④ 十一月十二日の「佐藤訪米闘争」に向けてもこのような二つの傾向、潮流が出来ようとしています。そして、このような傾向は、政治闘争だけであらわれているのではなく、労働者の、合理化斗争、賃金斗争、配転斗争、首切り反対斗争、そして職場斗争においてもあらわれているのです。仲間が、首を切られようとしているときでも、労資協調でゆこうと言わけてはなりません。

労働者は、職場をかため、労働組合を強め、これを闘う組織にしてゆかねばなりません。そして、十一月十二日には、「訪米阻止闘争」を学生にまかせておくのではなく、労働者が階級のな闘いとして、実力阻止闘争を取り組まなければならないのです。

(II) 何故11/12「佐藤訪米」を阻止しなければならないのか

① 労働者の皆さん、今、日本の社会は、大きな転換をむかえて大きく変わりつつあります。そして、これにもなつて、労働者階級の闘いは、たしかに、新しい局面に突入しはじめています。一方でブルジョアジーと権力は、帝国主義軍隊を強め、労働者階級の闘いを弾圧し、一層の搾取を強化しようとしているだけでなく、東南アジアに対する侵略をはじめ、ベトナム戦争に加担しようとしているのです。他方では、このような支配者階級の攻撃に対して、労働者階級が経済斗争ばかりではなく、政治斗争においても、その闘いを強め、労働者階級としての利害と権利を守り、発展させるために、実力で闘う必要性が生まれているのです。

② 独占ブルジョアジーは、その利潤を追求するために、国内ばかりでなく、国外においても、東南アジアを侵略しようとしています。「極東のきびしい情勢」と、その安全に名をかりて、帝国主義軍隊を強化しようとしています。沖縄県民の願望を、卑怯にも、国防強化のために利用しようという作謀を企て、次のような攻撃をかけて来ているのです。

- ① 安保第六条の積極的活用——米軍の行動への協力態勢の強化
- ② 東南アジアの政治的、経済的安定への日本の役割——東南アジアへの侵略とベトナム戦争加担
- ③ 国防の強化、国会内外での宣伝——労働者階級を弾圧する帝国主義権力(軍隊)の強化と軍隊の示威行進

① 米原潜、原子力空母の入港をどした。核アレルギーの除去戦争、軍隊、核武装に対する国民の感情をマヒさせること。
② 七十年安保に向って、野党と対決する。

③ 佐藤首相の「訪米」は、このような国内の階級攻撃と同時に、東南アジアへの侵略の開始を意味しているのです。それは、国内の政策の大きな転換だけではなく、日本の外交の一大転換をはじめていることを意味します。

本年六月、韓国のカイライ軍事政策の朴大統領就任式に参列した佐藤首相は、ベトナム参戦諸国の代表と非公式の「茶会会談」を行いました。そして、これにひきつづき、台湾をはさんで、第一次、第二次にわたる東南アジア訪問をおこなったのです。そして、この「めぐくり」として、「訪米」が計画されているわけでは、それは「一億ドル外交」と言うような経済援助をめぐるものではなく、はつきりとした、東南アジアへの侵略なのです。それは、これにとどまるのではなく、従来の日帝主義の二国間問題としてあった安全保障条約を、東南アジア条約機構（SEATO）及び、アンザス理事会（ANZUS）を含めた、日・米帝国主義と、東南アジア、大平洋の反共（中国封鎖）軍事網と、帝国主義支配者階級同盟をつくりあげようとしていることを意味しています。

日本帝国主義の野望、佐藤・三木の「東南アジア・大平洋開発構想」というのは、実は日本帝国主義の独自の利害をかけた、市場争奪戦、東南アジア侵略と、支配者階級の人民に対する階級同盟にほかならないのです。

これは、明らかに、日本の経済、政治、軍事外交の一大転換を意味しているのです。そして、これは、七十年安保条約が、日本の帝国主義軍隊を、はつきりと東南アジア、ベトナム戦争へ、公然と配置するものであることを意味するのです。

十一月十二日の佐藤訪米は、すでにさったベトナム訪問とあわせて、今秋の日本の外交、国内総路線の一大転換、反動と反共、東南アジア侵略とベトナム戦争加担の磁石であり、七十年安保条約をめぐる階級争いのはじまりなのです。だから労働者階級とすべての人々は、この「訪米」に象徴されている日本帝国主義の野望に強力な痛打をあげなくてはならないのです。

Ⅲ 労働者階級は何をすればよいか

① この様な新しい局面のはじまり、労働者階級の闘いの新しい局面への変化は、今、労働者諸君に何を要求しているのでしょうか、政府、自民党、そしてブルジョアジーの攻撃の本質は、帝国主義軍隊（侵略と反動の）を、労働者階級に承認し、支持することを要求しはじめています。

労働者階級は、この軍隊（支配者階級の暴力）を絶対に承認するわけにはゆかないし、又、支持してはならないのです。何故なら、軍隊は、日本の労働者階級を弾圧し、独自の搾取を保障するためのものであり、又、東南アジアをはじめとして、帝国主義の戦争と侵略に対して闘っているすべての人々を弾圧し、抑圧するためのものだからです。

② 労働者階級は、このやうな軍隊（支配者階級の対外的、対内的な暴力）を、拒否し、反対し、この様な攻撃と闘うためには、どのやうに闘いを組織すればよいか？

共産主義者同盟は、諸君に、次の三つのことを要求します。一つは、国家権力（軍隊と警察）と闘うためには、議会的な政治や労働組合主義的な政治と結合するのではなく、共産主義と結合しなければならぬということです。共産主義と言ふのは、④既存の全社会組織を暴力的に転覆し、世界革命を実現すること、⑤プロレタリアートの独裁は暴力革命によって実現されること、⑥議会制度の廃止と全人民の武装、⑦私有財産制の廃止のために、又これを終局の目標にして、労働者階級を支配者階級にきたえあげる政治のことです。

二つには、世界の「労働者階級の解放は、労働者自身の行為でなければならぬ」から、労働者は、国境や、国籍に左右されない世界の労働者の共通の利益のために、国際的な闘いを組織する必要があります。例えは、ベトナム戦争は、ベトナムの人々の闘いであると同時に、日本の労働者階級の闘いでもあるのです。

三つめには、この様な、共産主義と、国際的な闘いと国内における政治斗争、経済斗争とを、しっかりと結びつけて、切っても切れないやうに結合して闘うことです。

六四年以降は、経済斗争において、合理化、首切り、配転、賃金そして職場斗争が、まったくからみあっているだけでなく、公共料金の値上げと合理化や、政治斗争とからみあっているのです。

だから労働組合は、この中のどれかをとり出して、その他と関係なく闘うことが出来なくなっているのです。

③ 以上の様な、経済斗争、政治斗争、そして国際的な闘いを押し進めてゆくのは、労働者階級の中心的な組織である労働組合です。だから労働者は、労働組合を強め、拡大し、闘う組織にしてゆかねばなりません、そのためには、職場や、工場や、地域に、労働者が自主的に行動する、いろいろな自発的な組織をつくり、これをとあして、分会や支部をつよめてゆかねばならないのです。

現在、十一月十二日の佐藤訪米阻止斗争にむけて、全国で、色々の組織が出来ています。例えは職場反戦、地域反戦や、労研や、社研や、その他種々の組織が出来て、訪米阻止斗争を実現させようとしています。

そして、これら進んだ部分は、闘うことによって、おくれいている部分を守ってゆかねばなりません。又、まだむくれている部分は、この進んだ部分に対する権力とブルジョアジーの攻撃をゆるさないやうに、しっかりと支持し、擁護しなければなりません。ブルジョアジーの最大の弾圧というものは、進んだ部分と遅れている部分を分断しようとしていることです。労働者が団結するという事は、この権力に対して、分断されるのではなく、進んだ部分は闘うことによっておくれた部分を守り、おくれた部分は進んだ部分に感謝し、支持するということです。今秋闘いにおいて、国鉄の労働者の輸送拒否斗争を闘っています。訪米阻止斗争は、これとまったく同じ目的の闘いです。公労協の労働者、金属、機械、化学の労働者は、権力の弾圧に対して、共に闘わなければなりません。労働者階級は、権力の一切の暴虐と弾圧をのりこえ、階級斗争を前進させねばならないのです。

共産主義者同盟は四つの基本的主張と、十三の当面のスローガンを諸君にあたえます。

△四つの基本的主張△

- 一、既存の全社会組織を暴力的に転覆し、世界革命を実現せよ！
- 二、日本革命の道は暴力革命である！
- 三、全人民の武装！議会制度の廃止。
- 四、私有財産制の廃止。

△当面のスローガン△

- (一) 佐藤内閣を打倒し七十年安保を粉碎せよ！
- (二) 日・米帝国主義の侵略と抑圧 反革命同盟の陰謀、佐藤訪米を阻止せよ！
- (三) 11.12 羽田大量派遣を勝ち取り、佐藤訪米を武力阻止せよ！
- (四) 11.12 午後一時、羽田菰中公園に集結せよ！
- (五) 原潜、原空母入港阻止！ 砂川、成田、新島基地斗争を闘え！
- (六) ベトナム侵略阻止、兵器、物資の生産、輸送拒否！
- (七) 米軍政打倒！ 沖縄軍事基地撤廃！
- (八) 講和条約第三條破棄！
- (九) 防衛庁の省昇格阻止！
- (十) 国会周辺デモ規制粉碎、都条例、公安条例破棄！
- (十一) 小選挙区制粉砕！
- (十二) 大管法阻止！
- (十三) 一切の暴虐と弾圧をのりこえ！ 階級斗争を前進せしめよ！